

「シャインマスカット」の開花時期の早晩は果実品質にどう影響するか？

府中果樹研究所

1. 背景

- 「シャインマスカット」は、種なしで皮ごと食べられる良食味のブドウで、国内各地で栽培が急増。
- 「巨峰」や「ピオーネ」などに比べて開花期間が長いこと、果皮が緑色で収穫適期が把握しにくいことなどから、品質のバラツキが課題。
- 本品種は皮ごと食することから食べやすさが重要であり、その指標の一つである果皮の硬さは、栽培条件によって異なることが知られている。



2. 試験区の構成



作型	年次	開花1	開花2	開花3	開花4	開花5	開花6
無加温ハウス	H27年	5/1	5/2	5/4	5/6	5/8	5/9
	H28年	5/2	5/4	5/6	5/8	5/10	5/12
	H29年	5/5	5/7	5/9	5/11	5/13	5/15
雨よけトンネル	H27年	5/20	5/22	5/25	5/27		
	H28年	5/20	5/22	5/24	5/26		
	H29年	5/24	5/26	5/28	-		

※両作型とも、ほぼ1日おきに開花順の区を設定

3. 結果の概要

- 時期別の糖度は、生育途中までは開花の早い区で高く推移するが、生育後半には開花期の差はなくなる（図1）。
- 開花が遅い房は、いずれの作型も果粒重が軽くなる（図2）。
- 収穫期の糖度には開花早晩の影響は認められない（図3）。
- 果皮は無加温ハウスでは開花が遅い房ほど硬くなるが、雨よけトンネルでは開花時期の影響を受けない。
- 雨よけトンネルは、無加温ハウスに比べて、高糖度・低酸で果粒重が小さく、果皮が硬くなる傾向。

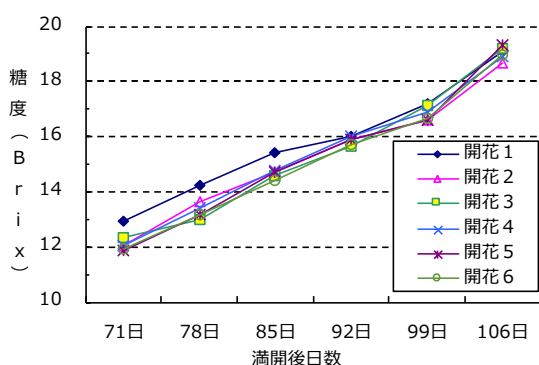


図1 時期別糖度の推移 (H28年：無加温ハウス)

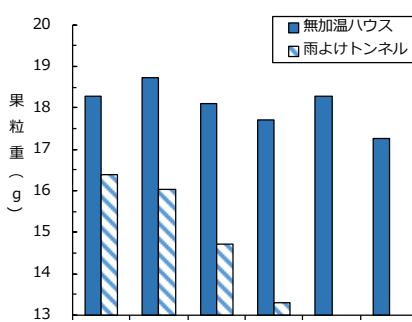


図2 収穫時の果粒重 (H27~29年の平均値)

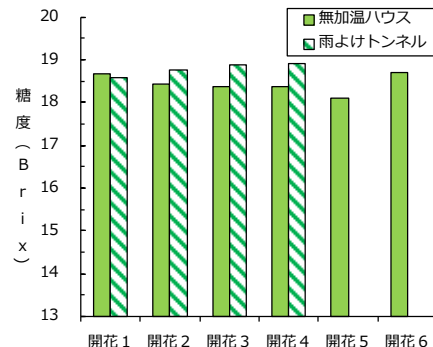


図3 収穫時の糖度 (H27~29年の平均値)

4. 成果の活用方法

- ①開花が遅い房から積極的に摘房を！
- ②『開花（ジベレリン処理）時期が早いほど増糖が早く成熟が早い』という誤った認識に注意！
一房毎に糖度をチェックし高品質果実の均一化を図ろう！
- ③ジベレリン1回目処理日毎に色の異なるクリップを！
クリップは摘房やジベレリン2回目処理時期の目安になる。

